誰一人取り残さないための学力向上アクションプラン

令和７年４月１日現在
江戸川区立篠崎第五学校

	国語		算数・数学	
令和８年度までの目標	自校ＡＢ層の割合	５５．０％	自校ＡＢ層の割合	５０．０％
令和６年度の成果	自校ＡＢ層の割合	６０．７％	自校ＡＢ層の割合	３６．７％

目標達成に向けた取組

３つの観点	教員の指導力向上	基礎学力の保障	学習習慣の確立
学校全体の取組	・どの教科の授業も、児童にとって「主体的・対話的で深い学び」となる展開を工夫して行い、学習規律を徹底する。 （例　問いの共有→自力解決→協働解決→価値の共有→振り返り→次時へのつながりの確認　等） ・年に３回程度、教員がお互いの授業を見せ合い、より改善した授業展開を考え、実践する。 ・中学年以上で、一部教科担任制を行い、教科指導の専門性を高める。	・週に２回程度、１回に付き１５分程度の学習タイムを毎週設ける。（国語科、算数科）国語科においては、音読、漢字学習の復習、視写、聴写、簡易作文、俳句作成などを、算数科においては、計算練習、作図練習、ミニテストなどを各学年の発達段階に応じて計画的に繰り返し取り組み、基礎学力を高めていく。また、教育用タブレットのミライシード内のドリルパークも積極的に活用し、反復学習を行う。（特に、年３回の江戸川っ子Study week!の時）	・児童が、毎日学年×１０分＋１０分程度家庭学習に取り組めるように、発達段階に応じた課題を出し、教師がチェックする。 ・年３回の家庭ルール期間や長期休業期間などに、児童が、教育用タブレットを使って、ミライシード内にあるドリルパークにすすんで取り組めるようにする。 ・すすんで自主学習をした児童のノートのコピーを教室内に掲示するなどして、学級全体の学習意欲を高めていく。
特に支援が必要な児童・生徒への手立て	・児童全員が自信をもって答えられるような問題を授業の中に取り入れ、自己肯定感や有用感を高めていく。 ・問題に対して、教師がヒントを伝える時間を随時設け、解決につなげる。 ・児童が授業中に書いた振り返りの内容を教師が随時点検し、よりよい指導法を考え、実践する。	・時間内に問題解決が全て終わらない児童に対しては、問題数を絞って取り組ませる。 ・月、火、木曜日等の会議のない放課後の時間を使って、個別指導をする。 ・現学年以前の学習内容の理解が不十分な児童には、補助教材を教師が準備し、繰り返し練習させ定着を図る。	・支援が必要な児童には、問題数をしぼったり、個別に自力解決可能な課題を出したりすることで、自己肯定感を保ちながら、家庭学習に取り組めるようにする。 ・デジタルドリルには、１年生の問題から段階を追って取り組ませ、児童がスモールステップで課題に取り組めるようにする。
成果指標	・全国学力調査の児童質問における「国語科・算数科の学習に対する興味・関心」の項目が全国平均を上回るようにする。 ・江戸川区学力調査の学習意識調査における「学習に対する興味・関心」の項目が、区平均を上回るようにする。	・各学年が、学期末用に準備したワークテストで、８割達成者が８０％をこえるようにする。 ・東京都ベーシック・ドリル診断テスト（２回目以降）や江戸川区学力定着度調査（３回目で）、８割達成者が７５％をこえるようにする。	・全国学力調査の児童質問における「生活習慣・学習習慣」の項目が、全国平均を上回るようにする。 ・江戸川区学力調査の学習意識調査における「学習習慣等」の項目が、区平均を上回るようにする。